

路面電車南北接続の効果について（開業後3年間の総括）

1. 公共交通の活性化効果

既存利用者の利用頻度増加や自家用車などの別の交通手段からの交通転換などが見られたほか、沿線住民の路面電車利用も増加しており、路面電車の利用促進に大きく効果が出ている。

また、富山駅南北のバリアが解消され、利用者の移動範囲の拡大が見られた。

- ①国内の路面電車事業者の多くは、新型コロナウイルス感染症の流行により利用者数が2～4割程度低下（R3/H30比）しているが、本市の路面電車は1割程度の低下にとどまっている。
- ②富山港線区間の利用者数は、コロナ禍にもかかわらず南北接続前（R1）と比較して平日・休日ともに約1.1倍に増加している。
- ③路面電車利用者の満足度は「混雑具合」を除いては高い傾向にあり、特に「運行本数」「運賃」に対する満足度が高い。
- ④路面電車利用者の17%が「南北接続により交通手段に変化があった」と回答しており、そのうち50%は自家用車からの転換が見られる。
- ⑤路面電車利用者の28%が「南北接続前と比べて路面電車の利用回数が増加した」と回答しており、利用日数は平均して週1.5日増加している。
- ⑥富山駅停留場の整備により、路面電車利用者の6割以上が「路面電車から路面電車への乗継」「雨天時の待合環境」が良くなったと回答している。また、富山駅停留場の整備により、利用者の63%には「路面電車の利用回数の増加」「別の交通手段から路面電車利用への切り替え」といった路面電車利用の変化が見られた。
- ⑦南北直通運行の開始により、路面電車利用者の64%が「便利になった」と回答している。また、南北直通運行の開始により、利用者の56%には「路面電車の利用回数の増加」「別の交通手段から路面電車利用への切り替え」といった路面電車利用の変化が見られた。
- ⑧路面電車沿線住民の22%が「南北接続前と比べて路面電車の利用回数が増加した」と回答しており、特に富山港線沿線住民においては30%が「利用回数が増加した」と回答している。
- ⑨路面電車沿線住民のお出かけ定期券申請率は高く、特に富山港線沿線住民の申請率は平成30年度から大きく上昇しており、現在は富山港線沿線住民の25%がお出かけ定期券を取得している（富山市全体は18.5%）など、高齢者の公共交通利用が定着している。

⑩富山駅の南北をまたぐ利用者は、平日は約2.4倍、休日は約2.6倍に増加するとともに、「県庁前」や「電気ビル前」などの駅周辺や総曲輪周辺の停留場の利用が増加するなど、路面電車による移動範囲が大きく変化している。

2. 公共交通沿線への居住推進効果

路面電車沿線への居住誘導が進むとともに、路面電車の存在や南北接続が居住地を選択する際のきっかけになっている。

- ①路面電車沿線の社会動態は平成26年から毎年転入超過が続いている。
- ②路面電車沿線住民の17%が平成28年以降の転居者であり、そのうち53%は転居先を選ぶにあたって「路面電車沿線であること」を重視し、21%は「路面電車が南北接続すること」を重視している。
- ③新たに路面電車沿線へ転居した方の27%は「路面電車をよく利用する家族がいる」と回答しており、実際に住んでみた結果、9割の方が「路面電車沿線が住みやすい」と感じている。
- ④路面電車沿線住民の79%は南北接続により路面電車沿線の住みやすさが向上したと感じている。
- ⑤路面電車沿線企業（4社）の従業員のうち、12%が5年以内に路面電車沿線へ転居している。

3. 中心市街地及び地域生活拠点の活性化効果

路面電車の利便性が向上したことにより、中心市街地への来訪機会の増加や業務における利用の増加など、商業や経済活動においても大きな効果を生んでいる。

また、路面電車の存在や南北接続が新規の出店先や就業者の勤務地選択にも影響を与えている。

- ①路面電車利用者の2割程度が「南北接続により中心市街地へ買い物に訪れる機会が増加した」と回答している。
- ②富山港線沿線住民の27%は「南北接続によりまちなかへの来訪頻度が増えた」と回答している。
- ③中心市街地やその他路面電車沿線に立地する事業所においては、1割程度の事業所が「南北接続により通勤や業務における移動で公共交通利用が増加した」と回答している。また、中心市街地事業所の36%、その他路面電車沿線事業所の45%が「南北接続により業務における移動が便利になった」と感じている。

④中心市街地に立地する商業施設の 17%、その他路面電車沿線に立地する商業施設の 20%が「南北接続後により来店者が増加した」と回答している。また、中心市街地商業施設の 25%、その他路面電車沿線商業施設の 37%が「南北接続後により新規の来店客が増加した」と感じている。

⑤中心市街地商業施設の 22%、その他路面電車沿線商業施設の 40%が「南北接続後に自店周辺に新しい店舗が増えた」と感じている。

⑥路面電車沿線の地価は、東岩瀬～岩瀬浜周辺を除いて平成 28 年以降は軒並み上昇している。

⑦路面電車を利用する就業者（会社員、自営業、パート・アルバイト等）の 11%は「勤務地を選択する際に南北接続を考慮した」と回答している。

4. ライフスタイルの変化に関する効果

南北接続はまちのイメージ向上にも寄与している。

さらに、南北接続によって学生の進学先選択にも少なからず変化が見られる。

①路面電車沿線住民の 85%が「南北接続により路面電車沿線のイメージが向上した」と感じている。また、沿線住民の 70%が「南北接続により中心市街地のイメージが向上した」と感じている。

②路面電車沿線の中学校（6 校）のうち 2 校においては、南北接続により路面電車沿線の高校を志願する学生が増加しており、生徒からは「自宅から路面電車一本で高校まで行けるようになり、進学先として興味を持った」との声も聞かれている。